世界連邦 Newsletter

２０１５年 9月28日
第631号

発　行　所
世界連邦運動協会
World Federalist Movement of Japan

〒107-0052 東京都港区赤坂 7-2-17 赤坂中央ﾏﾝｼｮﾝ 303
電話（03）6438-9442　ＦＡＸ（03）6438-9443
E-mail: info@wfmjapan.org　Twitter ： wfmjapan
URL: http://www.wfmjapan.org/
郵便振替　00190-6-29964

1 部 100 円（年 6 回　奇数月 1 回 28 日発行）

戦後７０周年 節目の日本大会 2015in 綾部に結集を!!

中沢新一氏が講演『多数の世界、一つの世界』

中沢新一氏

今年は戦後 70 年・被爆 70 年、また京都府綾部市が日本初の世界連邦都市宣言を行なって 65 周年、さらには世界連邦実現への道の探究が盛り込まれた国会決議から 10 年という節目に当たります。これを記念して第 32 回世界連邦日本大会を綾部市で開催します。

日本大会の主催は、世界連邦運動協会などで構成する世界連邦推進日本協議会（海部俊樹会長）。企画・運営に当たる綾部では、市や市議会、綾部世界連邦運動協会（綾部支部）など市民総ぐるみで実行委員会（委員長、山崎善也・綾部市長）をつくり準備を進めています。各支部はもとより様々な方面から多数の方々のご参加をお待ちしています。

大会テーマは「いま、一つの世界を」、メインは中沢新一氏(明治大学野生の科学研究所所長)の記念講演。宗教、哲学、芸術から科学まであらゆる領域に思考を展開する当代きっての思想家･人類学者が｢多数の世界､一つの世界｣と題して講演します。

会場は千人収容、参加は無料ですが、「入場整理券」が必要。定員までは当日受付も可能ですが、できるだけ事前に整理券をお求めください。綾部実行委員会へ電話、ファクスなどで連絡を。大会終了後に催される懇親会、翌日企画されているツアーにもぜひご参加ください。

世界連邦日本大会 2015in 綾部

（第 32 回世界連邦日本大会）

主催　世界連邦推進日本協議会

後援　外務省、文部科学省、京都府、京都府教育委員会、報道各社

協賛　人類愛善会、エフエムあやべ

企画・運営　世界連邦日本大会 2015 in 綾部実行委員会

日時　10 月 31 日（土）午後 1:30～4:30（開場 12：30）

場所　京都府中丹文化会館（綾部市里町久田 21-20）

内容

小･中学生の歌と太鼓/開会行事/世界連邦推進綾部市小・中学生ポスター・作文コンクール表彰式/世界連邦都市・綾部の歩み

記念講演『多数の世界、一つの世界』(中沢新一・明治大学野生の科学研究所所長)

平和への祈り（詩の朗読）/閉会行事

参加費　無料（ただし入場整理券が必要、できるだけ事前にお求めください）

会場へのアクセス

【車】舞鶴若狭自動車道・綾部 IC から約 5 分。京都縦貫自動車道・綾部安国寺 IC から約 10 分。

【電車】JR 山陰本線・舞鶴線「綾部駅」北口から徒歩約 30 分。タクシー7,8 分。※ＪＲ綾部駅北口から無料バス運行（12:30～13:10 に約 5 分おき）。

【懇親会】（大会終了後、会場を移して開催）

日時：10 月 31 日（土）午後 5:30～7:10

場所：京綾部ホテル（綾部市味方町倉谷 13、大会会場から車で約 15 分）

会費：5,000 円 ※ 必ず事前にお申し込みください。

※大会会場から懇親会場まで、懇親会場から JR 綾部駅までは無料バスを運行します。

【ツアー】（大会翌日の午前、綾部の見所をご案内）

日時：11 月 1 日（日）午前 9:20～11:30

コース：宿舎⇒大本本部⇒あやべグンゼスクエア

※出発する宿舎は京綾部ホテル(懇親会場)とアールイン綾部(JR 綾部駅北口)

※グンゼスクエアには「グンゼ博物苑」「綾部バラ園」「あやべ特産館」があります。

参加費：無料

※必ず事前にお申し込みください（定員 30 人になり次第締め切ります)。

宿泊について（斡旋）

大会等の参加に伴って宿泊が必要な場合は、京綾部ホテルまたはアールイン綾部に「世界連邦日本大会に参加」と伝え予約してください。ただし先着順で、部屋数には限りがあります。（実行委員会では承りかねます。）

◇京綾部ホテル（綾部市味方町倉谷 13、懇親会場）TEL(0773)40-5100

◇アールイン綾部（綾部市井倉新町瓜田 1-8、ＪＲ綾部駅北口すぐ）TEL(0773)40-5000

申込み・問合せ先

世界連邦日本大会 2015in 綾部実行委員会
事務局：綾部市企画政策課
〒623-8501 京都府綾部市若竹町 8-1
TEL（0773）42-4215
FAX（0773）42-4905
E-mail：kikakuseisaku@city.ayabe.lg.jp
（土田 哲生）

世界連邦の実現に向けて（その１）

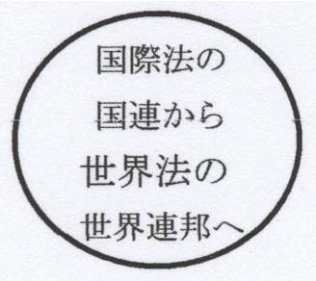
世界連邦運動協会副会長　荻 野 忠 則

世界連邦運動は国民・世界民共生のための義務と言っていいほどの活動ですが、「本当にできるの？」と言いたくなる状況の中で、運動に信頼を寄せて会費を払っていて下さるだけでも万感の感謝に値します。ありがとうございます。その思いを込めて平成 24 年 7 月の「世界連邦・北海道ニュース」から目次の内容の連載記事を始めました。わかりやすくて良かった、新しい会員にも読ませたいとの声がありましたので、手直しの上、世界連邦ニュースレターの記事にしてみました。今回は下記目次のうち 1 と 2 を掲載いたします。

目次

1. 世界連邦は必ず実現する現実的・民主的な法的政府の仕組みです
2. 戦争が起こらず、いざという時には助けられるのが世界連邦の仕組みです
3. 世界連邦実現の期待は日本政府にかかる状況にあります
4. 日本国憲法の平和主義は実は世界連邦実現です
5. 世界連邦実現の道程を見通しましょう
6. 世界完全軍縮過程の安全保障・安全弁の知恵

1　世界連邦は必ず実現する現実的・民主的な法的政府の仕組みです



町には条例があり、国には国法がありますが、世界には世界法がありません。世界中が通信・交通の発達で文字通り隣人同士になりましたが、世界は無法・無政府の状態です。国連がありますが、国連憲章という国際法に基づく仕組みです。国際法は国が責任をもつ約束です。国がわがままを通せば不幸な状態が放置されたり、戦争になったりします。世界法は一人ひとりが責任をもつ約束です。わがままな人を処罰しても戦争にはなりません。世界連邦は世界法に基づく仕組みです。

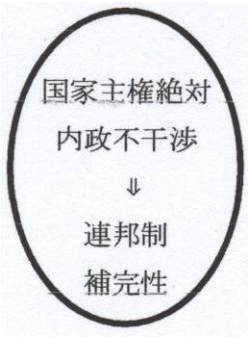
世界法の基(もと)は世界憲法です。世界憲法の案には「世界憲法シカゴ草案」など幾つか有名なものがありますが、まだ世界の仕組みとして成立していません。どうすれば成立するのでしょうか。世界議会はまだありません。しかし、ほぼ全世界と言える 193 カ国が代表を出している国連総会があります。そこで議決できれば世界の意志になります。国連の仕組みでは安全保障理事会がその決定を承認すれば国

連憲章から世界連邦憲法に移行して世界連邦が成立します。一番の障害は安全保障理事会の五大国に拒否権があることです。その一国でも拒否すれば成立しません。ですから世界連邦憲法の成立は難しいのです。けれども成立できる見通しはあるのです。その見通しについては目次の５で取り上げましょう。一つの地球に共生する人類が一つの政府の下の平安を求めることは必然です。環境や原子力などの世界課題解決にはどうしても世界政府が必要です。必要は実現の母です。

2　戦争が起こらず、いざという時には助けられるのが世界連邦の仕組みです

世界には国連に参加している 193 の国と加盟未承認の数カ国があります。実に多様な国々です。大きさも、人種も、宗教も、言語も、歴史も違います。平安に暮らしたいという希望は世界共通ですが、統治の仕組みはさまざまです。その仕組みは、そのままで加盟が認められるのが連邦制です。世界課題の解決に必要なことだけ世界憲法に従って協力すればよいのです。無理がないので、すべての国がすぐにでも参加できるのが世界連邦です。「無理がない」と言いましたが、自国の軍を無くしても他から攻められる恐れがないという世界完全軍縮に信頼できることが必要です。この点は目次の６で説きましょう。国家主権絶対ではなく、安全保障は世界連邦に任せられるのです。それが連邦制です。

世界連邦のもう一つの原則は補完性です。各国が自国のことを適切に処理できて平安が保たれるときには、世界連邦は介入してはならないが、自国の平安保持や大災害等を処理できない時は、世界連邦は放置せずに介入しなければならないという原則です。この原則は今の国際社会でも「保護する責任」として働くようになっています。



国連を含めてこれまでの世界が「国家主権絶対」と「内政不干渉」を二大原則としてきたのに対して、世界連邦は「連邦制」と「補完性」を原則とする、今の世界の現実に合うものになるのです。

本部と支部等の動き

8 月 23 日　21 世紀ﾌｫｰﾗﾑ講演会　講師：横山十祉子

9 月 18 日　本部が台東区東上野から赤坂へ移転

9 月 19 日　21 世紀ﾌｫｰﾗﾑ講演会　講師：由佐美加子　日比谷図書文化館 4F 小ﾎｰﾙ

9 月 24 日　平和を考えるﾌｫｰﾗﾑ支部　中東情勢勉強会　講師：岩浅紀久氏

9 月 27 日　世界連邦・北海道第 17 回大会　札幌市民ﾎｰﾙ

10 月 1 日　富良野市世界連邦平和都市宣言確認の日式典　山部中央公園

10 月 9 日　第一回理事会　赤坂(青山一丁目)

10 月 31 日　世界連邦日本大会　綾部市(京都府・中丹文化会館)

11 月 4-7 日 WFM 理事会　NY　国連ﾁｬｰﾁｾﾝﾀｰ

11 月 8 日　世界連邦四国大会　松山市ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ企画展示ﾎｰﾙ 2F

11 月 14 日　石川県連合会「秋の講演会」　講師：世界連邦運動協会会長代行・中野寛成氏

協会本部　港区赤坂へ移転

9月18日、協会本部(台東区東上野1-20-6)は、経費節減のため港区の赤坂中央マンションへ転居した。これは世界連邦21世紀フォーラム支部(木戸寛孝支部長)の事務所移転に伴い、協会本部がその場所の一部を無料で使えることになったために実現したものである。最寄駅は青山一丁目駅(徒歩5分)、赤坂見附駅(徒歩8分)で、緑豊かな高橋是清公園が一望できる素敵な場所である。引越に伴い住所・電話番号が変わるので、今後の本部への連絡の際はお間違いのないように。

〒107-0052 東京都港区赤坂7-2-17赤坂中央ﾏﾝｼｮﾝ303　TEL:03-6438-9442　FAX：03-6438-9443

第３回世界議会に向けたグローバル・ウィーク・オブ・アクション
（2015 年 10 月 15 日～25 日）
「わたしたちに決めさせて　―　今こそ世界議会を！」

もし自分たちの現在の政治システムが、ますます大きくなる地球規模課題に対して適切でないと感じているとしたら、それは決してあなた一人ではない。2015 年 10 月 15 日から 25 日の世界議会の創設を求めるグローバル・ウィーク・オブ・アクションに参加してください。世界議会こそが全ての市民に本当の代表を送り出すことを可能にします。

地球規模の課題が増えるにつれ、いろいろな背景や文化をもつ世界中の人々は、政治家を選出する現在の仕組みに不満を表している。地球規模の意思決定において、人々の声が政治家に届かない状態にある。

私達は多くの地球規模の課題をかかえている。生態系システムのひび割れ、人権を保護することに失敗し、核軍縮は不完全で、グローバル・マーケットや経済システムの規制はできておらず、社会的経済的不平等を克服することもできていない。こうした多くのことはすべてグローバルな問題であり、地球規模の解決策を必要としている。しかし誰が本当にグローバルな見地からこうした問題を取り扱う立場にあるのだろうか。

地球規模の課題の解決策をつくるために、私たちはグローバルな民主的議論や意思決定を調整する地球規模の政治的機構を必要としている。今日、地球市民は国連や国際通貨基金（IMF）、世界貿易機構（WTO）や G20 や G8 などの機構で採択される意思決定にほとんど影響力を持っていない。これらの機関の代表である政府は私たちの未来を決定しているが、往々にしてロビイストや大企業の影響を受けている。こうした政府の主な関心事は、彼らが何を国益とするかであり、人類や環境の共通益ではない。

では誰が世界の人々の言い分を語るのか。人々は自分たちで意思決定をするべきだ。民主主義的に市民は市議、県議、国会議員など既に様々なレベルで代表を選んでいる。ヨーロッパでは欧州という大陸議会すらある。それでも地球的課題に対して議員が選ばれた世界議会は存在しないのだ。世界議会は、民主主義的かつ公明正大で人類の公益に最大限に役立つ解決策を見つけ実践するための手段となるであろう。世界議会は、国境を越えた世界中の政治的、宗教的、民族的、文化的多様性を持つ市民のありさまを反映するだろう。

このキャンペーンの参加者である私たちは、世界市民は自分たちの世界の代表を選挙で選ぶべきであるという基本的な考えに賛同する。世界議会がどう機能すべきかについては様々なアイデアがある。ある人は電子的にアクセスできる直接的市民参加を可能とする仕組みによって補強されるべきだと考える。私たちは多様性を持ち、自分たちの声でつながっている。

私たちは国境なき民主主義を必要としている。グローバルな民主主義をつくらなければいけない。私たちは世界議会を必要としている。

私たちは、2015 年 10 月 15 日から 25 日に行われる、世界議会を求める最初のグローバル・ウィーク・オブ・アクションにおいて、個人、組織、グループ、運動など、あらゆるところに呼びかけ、共に行動する。ぜひ地球規模の民主主義のために声をあげよう。

＊　　＊　　＊

あなたが取れるアクションの例を示します。

このプロジェクトにどのように関わりたいかメールをする。/フェイスブックやツイッターに「いいね」を押してリツィートする。/友達に知らせて、署名を呼びかけたり、あなたや友達の写真を送ったりする。

一緒に盛り上げて参りましょう。

（宛先：info@wfmjapan.org 件名：WPN）

参照サイト http://www.worldparliamentnow.org/

このアクションは、欧州での難民問題、ウクライナ、ガザなどの紛争、デング熱などの伝染病など、国益を主張し合うのでは解決できない問題を地球に生きる市民の立場で、世界議会で話し合うことができる世の中を目指しています。

（阿久根　武志）

21 世紀フォーラム主催 第 34 回ピースビレッジ講演会

横山十祉子氏

8 月 23 日、日比谷図書文化館で、世界連邦 21 世紀フォーラム主催の第34回ピースビレッジが開催され、System Awareness Consulting 代表の横山十祉子氏から「プロセスワークは、世界を、人を変容させていく！　～変化の鍵は結果ではなくプロセスにある～」というテーマで講演が行われた。

いい「結果」を残したいと誰もが願っているが、その結果に至るまでの「プロセス」や「流れ」にこそ本質があり、そこに目を向けて、そこから気付き（アウェアネス）や変化を与えていくことの重要性について深い示唆を得た。

以下は、横山氏の講演からの骨子である。

例えば結果を重視した論理化されたものから不安定なものへ変容するように、これまで機能してきた見方がシフトしている。

各部分や個別的なものを明確にしていくだけではなく、「全体をどう扱っていったらよいのか」ということがテーマとなり、そうした時代背景の中でアーノルド・ミンデルはユング心理学を発展させるかたちで「プロセス・ワーク」という概念を生み出し、それを「ドリームボディ」、「ワールドワーク」、「プロセスマインド」へと進化させてきた。

物事の結果には原因があるが、その原因を善悪で判断するのではなく「意味」（文脈）として理解することが大切である。意味として捉えることができれば、それを「気付き」にしていくことができる。

無意識と意識との間には断絶があるように見えるが、本来は意識も無意識も連続体として繋がっている。その繋がり(全体性)を実感できるようになるには「意識の明晰さ」(アウェアネス)が求められ、それはあらゆる意識状態に気づき、それらをドリーミングプロセスに沿って自由に行き来できるような意識状態のことである、とミンデルは述べた。

また、人生において「全体性へと開かれる」のは「葛藤がある」ことによって心が窮屈になる状態の時で、それにより小さなパラダイムシフトが必要とされているときこそがそのチャンスと言える。

因果思考は「私」つまり自我の確立に有効であるが、これが行き過ぎると全体性や多様性、自分の源と分断されることとなる。

プロセス指向は、全体性／多様性へ開かれるのに有効であるが、行き過ぎると自他境界を失う。この二つの思考(指向)を相互作用させていくことが大切である。

またミンデルは、全体の流れを司る源泉を「ドリーミングプロセス」と名付けた。それは、自然が自ずから持っている流れ、無、空、タオであり、有機的な全体システムを有している。その源泉（Source）に個人の意識がアクセスすると、個と全体は自己相似的な構造を為していることから、世界と繋がり影響を及ぼしていくことが可能となる。ゆえにプロセスワークでいう「プロセスすること」とは、この全体の流れと繋がった気付きを得ることといえる。

変化の時代において、よりよい未来へのアクションを起こしていくために必要とされるアウェアネスでポイントとなるのは、源泉と個人・人間関係・世界に対する気付き、全体システムと自分の立ち位置への気付き、全体システムを構成する多様な要素間のダイナミクスへの気付きである。

（阿久根 武志）

綾部市で「平和祈願の集い」

終戦の日の 8 月 15 日早朝、京都府綾部市で恒例の「市民平和祈願の集い」が開催された。市や市議会、綾部支部などでつくる実行委員会が毎年この日に催しているもので、会場は市街地を見渡す藤山山頂(標高 201m)。さほど広くはないが都市公園として整備され、昭和 55 年には市制施行 30 周年を記念して「平和の鐘」施設が造営された。音叉の形をしたステンレス製の「鐘」の上に設えた音響装置からは毎日朝夕「平和のメロディー」（三枝成彰作曲）が市街地に流れる。

（土田 哲生）

ユースフォーラム勉強会

2015年7月29日にJICA 地球ひろばに数十名の学生が集まり、新会員募集のための「世界連邦（WFM）ユースフォーラム勉強会」が開催された。この会合では、谷本真邦支部長が世界連邦の運動・歴史・理念についてわかりやすく講演するとともに、学生たちとの意見交換会が行われた。谷本支部長の講演を、学生たちは熱心に傾聴していた。また意見交換会では、学生たちの積極的な参加もあって、当初の予定よりも時間が延びるほど盛り上がり、勉強会終了後も谷本支部長のもとに質問に来る学生もいた。

参加者の意見には「世界連邦という考え方があるなんて知らなかった」「日本では少子高齢化というけれども、地球市民として見れば、人口は増えつづけているという話などは、世界観が広がった」「普段、大学では学べないことなので、またこういう勉強会をやってほしい」など、概ね高評価で、今後に繋がるものが多かった。これは現会員の私たちにとっても今後の運動への自信につながるものとなった。

なお、ユースフォーラムは現在、谷本支部長の指導のもと、学生たちが毎週ミーティングを行なっている。学生たちはまず世界連邦という考え方を多くの若者に知ってもらうことを軸に活動していて、自らも、「平和な世界にするにはどうすればいいのか」「世界連邦とは何か」「世界連邦が実現したらどのような世界になるのか」など、知識を蓄えることをおろそかにしていない。超党派・超宗派である我々は、世間の幅広い理解と支持を得られるよう努めていくと同時に、若者のエネルギーをよりよい社会のために還元できるよう努めたい。

最後に私自身の意見を述べさせて頂く。世界連邦の実現は、平和な世の中をつくるために不可欠であり、このような運動に出会えたことは、私の運命でもあり、使命だと感じている。「よりよい未来の世界を考えること」は先進国に生まれてきた者の責任である。100年後の平和な世界に向け、我々の活動がその礎となるように、今後もさらに活動を拡大し発展させていく所存である。

（ユースフォーラム支部　関　健悟）

あなたも世界連邦運動協会の会員になりませんか。応援してください。

入会希望の方は、住所・氏名・電話番号・メールアドレスをお書きの上、郵送またはFAXにて下記の本部事務局へお申し込み下さい。

世界連邦運動協会　〒107-0052 東京都港区赤坂7-2-17 赤坂中央ﾏﾝｼｮﾝ303
TEL 03-6438-9442 FAX 03-6438-9443

□普通会員／年額5,000円　□維持会員／年額10,000円　□賛助会員／年額15,000円

広島平和記念式典

広島は本年８月６日、世界史上初めての原爆投下から70年を迎えた。私は毎年、海部俊樹会長の名代として「原爆死没者慰霊式・平和祈念式」（平和記念式典）に参加させて頂いている。今年も例年通り８時から広島市中区の原爆ドームを臨む平和記念公園で安倍首相らが出席して開催された。諸外国からも過去最多の100カ国および国連・EUの代表が参加。中国を除く米・英・仏・露の核保有国で国連安保理常任理事国の代表者も出席。特に原爆投下の当事国である米国からもケネディ駐日大使・ガテマラー国務次官が参加した。主催する広島市の松井一實広島市長は平和宣言で、印象的な「広島をまどうてくれ（元通りにしてくれ）」という被爆者の悲痛な叫びを盛り込んだほか、多くの外交団を前に世界の指導者へ向けて、核兵器は「絶対悪」であり「人類愛」と「寛容」を呼び掛けた。

午後から広島市内のホテルで行われた、世界連邦日本宗教委員会と世界宗教者平和会議（WCRP）日本委員会、聖エジディオ共同体の共催による原爆投下70年シンポジウム「二度と戦争を起こさない――核兵器廃絶をめざして」にも参加した。これには宗教家など約250名が参加、まず田中恆清世界連邦日本宗教委会長(神社本庁総長)が開会の挨拶をし、次いで松井一實広島市長、ジョセフ・チェノットゥ駐日バチカン大使、ドメニコ・ジョルジ駐日イタリア大使が挨拶。その後、杉谷義純天台宗宗機顧問、アルベルト・クワトルッチ聖エジディオ共同体事務局長が発題を行い、広島東照宮の久保田訓章宮司が被爆証言をした。シンポジウムのセッション１では『核兵器廃絶の課題』をテーマに、庭野光祥立正佼成会次代会長がコーディネーターとなり、発題者としてウラジミール・ガルカベンコ核戦争防止国際医師会議共同会

長、コメンテーターとして三鍋裕日本聖公会横浜教区主教とファイサル・ムアンマルアブドッラー国王宗教・文化間対話のための国際センター事務総長が登壇。またセッション２では『今後の核兵器廃絶への行動』をテーマに、杉野恭一世界宗教者平和会議国際委副事務総長がコーディネーターとなり、発題者としてチャン・サン世界教会協議会議長、コメンテーターとして黒住宗道黒住教副教主と、アレン・ウェア核軍縮不拡散議員連盟グローバルコーディネーターが登壇。それぞれ「二度と戦争をおこさない、二度と過ちを繰り返さない」という趣旨の意見が交わされた。

この二つの行事の参加を通じて、広島の夏は、例年以上に国際色豊かになったという印象をうけた。各国外交団は多数の観光バスを連ねて到着し、私の周りの席にも非常に多くの外国人・外交団が着席しており、それぞれと平和について話すことが出来た。世界連邦運動に従事する者として、これら行事に参加させて頂くことで、犠牲になった方々への祈りとともに、「核兵器の恐ろしさ」と「平和の尊さ」を世界各国の人々にアピールをしていくことの大切さを、あらためて考えさせられた。

（谷本 真邦）

石川県連合会 秋の講演会

日時：11月14日(土)13：30～16：00

（受付開始13：00）

会場：金沢東急ホテル５階（金沢市香林坊2-1-1）

講師：世界連邦運動協会会長代行・中野寛成氏（元衆議院議員、第84代国家公安委員会委員長）

2015世界連邦四国地区大会のお知らせ

日時：11月８日(日)11：00開始 自治体式典

昼食後、13：00～15：00四国ブロック大会・パネルディスカッション

会場：松山市ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ企画展示ﾎｰﾙ２階

演題：激動する世界情勢と世界連邦

シンポジウムのお知らせ：ピケティ「21 世紀の資本」とグローバル・タックス
～行き詰まる資本主義、日本の格差・貧困、国際課税への提言～

シンポジウムのご案内です。格差・不平等が世界でそして日本で拡大しています。昨年、今年と一大旋風を起こしたトマ・ピケティ教授の『21 世紀の資本』は、格差・不平等との闘いの理論的支柱を提起しています。ちょっと落ち着いたところで、あらためてピケティ理論を捉え直してみたいと思います。

基調報告は、日本の貧困・格差問題の第一人者である橘木俊詔氏に行なっていただきます。また、パネルディスカッションでは各分野の専門家が問題提起を行います。世界と日本の格差・不平等を解消し、かつ世界的な貧困化・温暖化等の地球規模課題に対応していくために私たちは何をなすべきか。ともに考えましょう。

シンポジウム：ピケティ「21 世紀の資本」とグローバル・タックス　～行き詰まる資本主義、日本の格差・貧困、国際課税への提言～

◎基調講演：橘木俊詔氏（京都女子大学客員教授、京都大学名誉教授）
◎パネルディスカッション：グローバル・タックス、グローバル累進的資産税の可能性を探る
モデレーター：三木義一(青山学院大学教授)
パネリスト：水野和夫(日本大学教授)
志賀 櫻(弁護士)・上村雄彦(横浜市立大学教授)・小西雅子(WWF 気候変動・エネルギー・プロジェクト・リーダー)
日時：11 月 7 日(土)13:00～16:30 (12:30 開場)
会場：青山学院大学 9 号館 931 教室
map:http://www.aoyama.ac.jp/outline/campus/aoyama.html
定員：150 名/資料代：500 円/申込み：氏名と所属、「シンポジウム参加」と明記のうえ、E-mail または FAX でお申し込みください。
E-mail：info@isl-forum.jp
Fax:03- 3834-2406
共催：ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ連帯税ﾌｫｰﾗﾑ/民間税制調査会
協賛：(特活)日本リザルツ
****
ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ連帯税ﾌｫｰﾗﾑ(g-tax)事務局
〒110-0015 東京都台東区東上野 1-20-6
丸幸ビル 3F オルタモンド気付
Tel:03-3831-4993　Fax:03-3834-2406
http://isl-forum.jp/
※当協会はｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ連帯税ﾌｫｰﾗﾑに加盟しています。

国会委員会勧誘ご協力のお願い

国会委員会の会員は現在約 100 名です。選挙のたびに 30 名ほどの議員さんが議席を失い、新規入会を呼びかけて、前の人数と同程度に回復したあたりでまた次の選挙があるということを繰り返しています。2009 年と 2012 年の総選挙は特に入れ替わりが激しく、前者で約 80 名、後者で約 50 名の会員を失いました。国会委員会では未入会の議員さんに年数回入会を呼びかけています。また、日本大会 in 大阪があれば、大阪出身の議員さんに声をかけ、本年は日本大会 in 綾部があるので京都出身の議員さんに声をかけているところです。ただ、今までの経験ですと、事務局の私が数回声をかけるよりも、運動協会の皆様から地元出身の議員さんに声をかけていただく方がはるかに効果があるようです。北海道の荻野さんは、選挙が終わるたびに、北海道出身の未入会議員さんに声をかけて下さっており、お陰で北海道の議員さんには多く入会していただいております。他にも、ここ数年は、皆様方からのお声がけでの入会が大半を占めております。もし、皆様の中で「国会委員会の入会勧誘に協力したい」という方がいらっしゃいましたら、国会委員会事務局の私にご連絡下さい。ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。sekairenpou@beach.ocn.ne.jp

（塩浜　修）

編集後記　☆欧州での難民問題の深刻化に胸を痛めています。(阿久根) ☆戦後 70 年。未来から見て今が「実は戦前だった」ということがないようにしたい。(塩浜)　☆11 月 14 日に金沢で開催される石川県連合会主催「秋の講演会」には本会会長代行の中野寛成氏を講師に迎えます。北陸新幹線の開通で東京・金沢間の行き来も楽になりましたので、晩秋の金沢観光を兼ねてご参加ください。(平口)

事務所連絡先が変わりましたのでご注意下さい。（1 頁右上および 3 頁を参照）

編集委員会/委員長：阿久根武志、副委員長：塩浜修・平口哲夫、委員：荻野忠則・土田哲生